



信州の遺跡をたずねる 常盤の遺跡



異形部分磨製石器と細久保式土器

この石器は、表面の加工痕跡がほとんどなくなるほど磨製し、「トドトド石器」とも呼ばれている。細久保式土器は、完成を待たずに土上げていたため、特殊な使い方をした石器と考えられている。細久保式土器は、縄文時代の典型的な器であり、信州各地で出土している。

長野県埋蔵文化財センター
長野県教育委員会
大町市教育委員会
国営アルプスあづみの公園事務所

1万3千年前 1994年 2万6千年前

山の神遺跡



配石遺構と竪穴住居跡

配石は地面を多少掘りこぼれ、平たい河原砂を「コ」の字状に敷べたつくられている。平野中央には、配石構築以前につくられた土器の破片も散見する。



石器出土状況

まきまき出土した「トドトド石器」。



集石遺構

食料の調理に使われたとみられる伊勢。



信州県立博物館



詳しくはQRコードでチェック!



山の神遺跡遺構

公園の建設に伴い平成九年から十四年間、約八千平方メートルの発掘調査を行いました。調査区の中央部分で発見された「コ」の字状の配石遺構は、東西十一メートル、南北九メートルの大規模な構造物で、細久保式と呼ばれる尖底土器が出土し、縄文時代でも最古級に位置づけられます。また配石遺構とその周辺部からは、「異形部分磨製石器」四十一点が出土し、一遺跡としては国内最多で、狩猟採集社会における特別な祭祀跡と推定されています。これらの発見は、縄文文化の形成を考える上に極めて重要であり、平成十二年、配石遺構を現地に残しました。

※発見された配石遺構は、一度め度して保存し、その規模が分かるよう地表面に河原石を配置しました。

山の神遺跡

縄文時代早期(約八千年前)の祭祀跡を調査